

四日市港管理組合議会ニューズ

Yokkaichi Port Authority Assembly

平成 20 年 第 2 号(2008.7)

さる 7 月 15 日に平成 20 年第 2 回定例会が開会され、同月 22 日に一般質問が行われ、議提議案 2 件を可決して閉会しました。

今回の一般質問では、中嶋年規議員（三重県議会選出）、三平一良議員（四日市市議会選出）の二人が壇上から四日市港港湾行政に関する質問を行い、管理組合執行部に答弁を求めました。

主な質問・答弁要旨

中嶋年規 議員



○ **今後、ポート戦略をどのように立てようとしているか。**

自動車関連産業を中心として、荷主企業に対してトップセールスやきめ細かな対応を戦略的に行っていくとともに、経済環境の変化によって変わる荷主企業のニーズに的確に対応していきます。

○ **好調な三重県経済の恩恵は、四日市港の取扱量に反映されているか。**

本県では、半導体や液晶などの電子部品等が多く、過去 3 年の製造品出荷額等の伸びにコンテナ取扱量の伸びが追いついていませんが、背後圏の経済状況を背景に、四日市港の港勢は順調に推移しています。

三平一良 議員



○ **石原地区三田処分場に、計画外の大企業の産業廃棄物を受入れたことで、一般廃棄物受入れた場合との差額が 10 億円以上と思われる。この事業の協定書では、「過大であると認められる収益があった場合、事業を実施する三重県環境保全事業団から収益の一部又は全部を管理組合に納付する」とあるが状況は。**

現段階では納付はなく、埋立事業を終了した後に、双方で協議したいと考えています。

○ **名古屋港と連携して、国際競争力を高めるため、「伊勢湾の一開港化」をどのように考えているか。**

「伊勢湾スーパー中枢港湾連携推進協議会」で港湾機能の強化、災害対応力強化等、様々な協議がされています。四日市港と名古屋港が連携し、中部圏産業を支えていくためにも「伊勢湾の一開港化」の実現を積極的に同協議会へ働きかけていきます。